



情報開示に向けた準備、ステップの解説

自然関連財務情報開示のためのワークショップ《ベーシック編》

第2回 自然関連の依存・影響・リスクの分析に活用できるツールの紹介・実践

2023年10月31日



1. LEAPアプローチとは
2. LEAPアプローチの各ステップ

1. LEAPアプローチとは

1

LEAPアプローチとは

TNFDが推奨するLEAPアプローチとは

- LEAPアプローチは、**自然との接点、自然との依存関係、インパクト、リスク、機会など、自然関連課題の評価のための統合的なアプローチ**として、TNFDにより開発されました。
- LEAPアプローチでは、スコーピングを経て、Locate（発見する）、Evaluate（診断する）、Assess（評価する）、Prepare（準備する）のステップを踏み、TNFD情報開示に向けた準備を行います。
- LEAPアプローチは、TNFDが推奨するステップであり、**実施は必須とされていませんが、パイロットテストの結果からも有効とされています。**

Scoping
(スコーピング)

Locate
(発見する)

Evaluate
(診断する)

Assess
(評価する)

Prepare
(準備する)

1

LEAPアプローチとは

LEAPアプローチのステップと質問項目

スコーピング

組織の潜在的な自然関連の依存、インパクト、リスクおよび機会に関する仮説を創出し、LEAP評価のパラメータを定義し、経営層と評価チームが目標とスケジュールについて一致していることを確認するため、内部および外部のデータと参考情報源を素早くハイレベルで事前調査すること。

作業の仮説を立てる

組織における重要な自然関連の依存、インパクト、リスク、機会がありそうな活動は何か？

目標とリソースの調整

組織内の現在のキャパシティ、スキル、データのレベル、および組織の目標を考慮した上で、アセスメントを実施するために必要なリソース（財務、人材、データ）と時間配分を検討し、合意する。

発見する (Locate) 自然との接点

L1
ビジネスモデルとバリューチェーンの範囲

セクター別およびバリューチェーン別の自社組織の活動は何か。直接的操業している拠点はどこか。

L2
依存とインパクトのスクリーニング

これらのセクター、バリューチェーン、直接的操業のうち、自然への依存やインパクトが中程度または高い可能性のあるものはどれか。

L3
自然との接点

中程度または高い依存とインパクトを持つ可能性のあるセクター、バリューチェーン、直接的操業はどこにあるか。直接的操業や、依存が中程度でインパクトの大きいバリューチェーンやセクターは、どの生物群系や特定の生態系と接点を持っているか。

L4
インパクトを受けやすい地域との接点

バリューチェーンやセクターにおいて、依存やインパクトが中程度または高い組織の活動のうち、生態学的に影響を受けやすい場所はどれか。また、直接的操業のうち、どの拠点が生態学的に影響を受けやすい場所にあるか。

診断する (Evaluate) 依存とインパクト

E1
環境資産、生態系サービスとインパクトドライバーの特定

分析対象となるセクター、ビジネスプロセス、活動は何か。どのような環境資産、生態系サービス、インパクトドライバーが、これらのセクター、ビジネスプロセス、活動、評価対象地域と関連しているのか。

E2
依存とインパクトの特定

自然に対する依存やインパクトは何か。

E3
依存とインパクトの測定

自然への依存規模、や範囲はどの程度か。自社が自然に与えるマイナスのインパクトの重要度はどの程度か。自社が自然に与えるプラスのインパクトの規模と範囲はどの程度か。

E4
重要性のインパクト評価

自社のどのインパクトが重要か。

評価する (Assess) リスクと機会

A1
リスクと機会の特定

自社の組織に関連するリスクと機会は何か。

A2
既存リスクの軽減とリスクと機会の管理の調整

既存のリスクを軽減し、リスクと機会を管理するプロセスと要素で、すでに適用しているものは何か。リスクと機会の管理プロセスと関連要素（例えば、リスクタクソノミー、リスクイベントリ、リスク許容度基準）をどのように適合させることができるか。

A3
リスクと機会の測定と優先順位付け

どのリスクと機会が優先されるべきか。

A4
リスクと機会の重要性の評価

どのリスクと機会が重要であり、TNFDの開示提言に沿って開示する必要があるか。

準備する (Prepare) 対応し報告する

P1
戦略とリソース配分計画

この分析の結果、どのようなリスクマネジメント、戦略および資源配分が決定されるべきか。

P2
ターゲット設定およびパフォーマンス管理

どのようにターゲットを設定し進捗度を定義・測定するのか。

P3
報告

TNFDの開示提言に沿って、何を開示するのか。

P4
公表

自然に関する開示はどこで、どのように提示するのか。

先住民族、地域社会、影響を受けるステークホルダーとのエンゲージメント

シナリオ分析

1

LEAPアプローチとは

LEAPアプローチとTNFDの開示提言の関連性

- TNFD最終提言v1.0では、LEAPの各ステップとTNFD開示提言がどのように関連しているかが示されています。

発見する (Locate)
自然との接点

診断する (Evaluate)
依存とインパクト

評価する (Assess)
リスクと機会

準備する (Prepare)
対応し報告する

LEAPを実施する上でサポートとなるTNFDの開示提言

戦略D

戦略A
戦略D
リスクとインパクトの管理A (iおよびii)
リスクとインパクトの管理B
測定指標とターゲットB

戦略A
戦略C
戦略D
リスクとインパクトの管理A (iおよびii)
リスクとインパクトの管理B
リスクとインパクトの管理C
測定指標とターゲットA
測定指標とターゲットB

ガバナンスA
ガバナンスB
ガバナンスC
戦略B
戦略C
測定指標とターゲットC

2. LEAPアプローチの各ステップ

2 LEAPアプローチの各ステップ

Scoping フェーズ

- LEAPのステップに入る前に、LEAPプロジェクトチームと経営層の間で、目標や期待される成果、タイムライン、人員や予算要件などについて調整することが不可欠とされています。
- スコーピングフェーズでは、組織の潜在的な自然関連の依存関係、インパクト、リスク、機会において予想されるセクター、活動、バリューチェーン、地域、特性に関する仮説を作成するため、社内外のデータや参考情報をもとに、素早くハイレベルで予備的なスキャンを行います。
- 効果的なスコーピングの鍵は、最初の調査やデータスキャンに多くの時間や資源を投入しないこととされています。

スコーピング

組織の潜在的な自然関連の依存、インパクト、リスクおよび機会に関する仮説を創出し、LEAP評価のパラメータを定義し、経営層と評価チームが目標とスケジュールについて一致していることを確認するため、内部および外部のデータと参考情報源を素早くハイレベルで事前調査すること。

作業の仮説を立てる

組織における重要な自然関連の依存、インパクト、リスク、機会がありそうな活動は何か？

目標とリソースの調整

組織内の現在のキャパシティ、スキル、データのレベル、および組織の目標を考慮した上で、アセスメントを実施するために必要なリソース（財務、人材、データ）と時間配分を検討し、合意する。

2 LEAPアプローチの各ステップ

Scopingフェーズ (演習) 4~5分

- Scopingフェーズでは、以下のサブ質問が設けられています。サブ質問を読んで、回答をイメージしてみてください。

作業の仮説を立てる	組織における重要な自然関連の依存、インパクト、リスク、機会がありそうな活動は何か？	組織（および評価チーム）は、自然関連の依存関係、インパクト、リスク、機会に関する基礎的な理解を持っているか？	
		組織の上流と下流のバリューチェーンにはどのような活動や資産があるか？	
		組織はどのセクター、バリューチェーン、地域に存在するか？	
		各活動や資産に関連する収入、支出、収益はどの程度か？セクター別、バリューチェーン別、地域別？	
目標とリソースの調整	組織内の現在のキャパシティ、スキル、データのレベル、および組織の目標を考慮した上で、アセスメントを実施するために必要なリソース（財務、人材、データ）と時間配分を検討し、合意する。	組織の目標と LEAP 評価から期待される成果は何か？	
		マテリアリティに対する組織のアプローチは何か？ TNFDの企業報告において主要なステークホルダーは誰か、彼らにとって重要な情報は何か？	
		バリューチェーンの複雑性を考慮した場合、現時点でどの程度の評価が可能か、または適切か？製品別、工程別、投入物別、事業単位別、事業所別などがよいか？	
		分析のベースラインと期間はどうか？	
		現在の評価の限界や制約は何か？（例：スキル、データ、財源など）	
		分析の境界はどこに設定するのが適切か？関連する事業活動、セクター、地域、生物群は何か？	

2 LEAPアプローチの各ステップ

Locateフェーズ

- Locateフェーズでは、**3つのフィルター（セクター、バリューチェーン、地理的位置）**を用いて**自然に関連する潜在的な問題を絞り込み、優先順位をつける**ことを推奨しています。
- Locateフェーズでは、以下の成果が期待されています。
 - セクター、バリューチェーン（上流及び下流）、地域別にフィルタリングされた、**中程度及び高程度の自然に関連する依存及び影響の理解**
 - 事業活動を行う生態学的に**影響を受けやすい場所のリストや地図、LEAP評価を行う場所**
 - 自然との接点について評価されたビジネスモデル、バリューチェーン、資本ポートフォリオの割合の理解

発見する(Locate) 自然との接点	
L1 ビジネスモデルと バリューチェーンの範囲	セクター別およびバリューチェーン別の自社組織の活動は何か。 直接的操業している拠点はどこか。
L2 依存とインパクトの スクリーニング	これらのセクター、バリューチェーン、直接的操業のうち、自然への依存やインパクトが中程度または高い可能性のあるものはどれか。
L3 自然との接点	中程度または高い依存とインパクトを持つ可能性のあるセクター、バリューチェーン、直接的操業はどこにあるか。 直接的操業や、依存が中程度でインパクトの大きいバリューチェーンやセクターは、どの生物群系や特定の生態系と接点を持っているか。
L4 インパクトを受けやすい 地域との接点	バリューチェーンやセクターにおいて、依存やインパクトが中程度または高い組織の活動のうち、生態学的に影響を受けやすい場所はどれか。 また、直接的操業のうち、どの拠点が生態学的に影響を受けやすい場所にあるか。

2 LEAPアプローチの各ステップ

Locateフェーズ（演習） 4～5分

- L1について考えます。
- 自社が属する産業について、TNFDが推奨する「Sustainable Industry Classification System (SICS)」の分類で調べてみてください。

Download SASB Standards

検索

社名を英語で
入力



The screenshot shows the 'Company Search' section of the SASB website. It features a search bar with the placeholder text 'Search by ticker, ISIN, or company name.' and a blue search button. To the right of the search bar is a language selection dropdown menu currently set to 'English'. Below the search bar, there is a link that says 'Find Your Industry' and another link that says 'See how SASB determines industries'.

出所：<https://sasb.org/standards/download/>

- 直接的操業をしている拠点はどこか、イメージしてください。（公式HP情報などから）



An empty rectangular box with a black border, intended for users to take notes or provide answers to the exercise.

2 LEAPアプローチの各ステップ

Evaluateフェーズ

- Evaluateフェーズでは、組織にとって潜在的に重要な**自然への依存関係とインパクト**を把握します。これには**上流・下流のバリューチェーン**も含まれますが、**まずは少数の重要性の高い課題（例：パーム油産地）から着手し、その後開示範囲を広げる**ことも推奨しています。
- 依存関係やインパクトの分析は、**リスクと機会を理解するための重要な第一歩**となります。
- Evaluateフェーズでは、以下の成果が期待されています。
 - 関連する環境資産と生態系サービスのリスト
 - 組織の自然への依存関係とインパクトのリスト
 - 潜在的に重要な依存関係と自然へのインパクトの分析、および重要な依存関係とインパクトのリスト

診断する(Evaluate) 依存とインパクト	
E1 環境資産、生態系サービスとインパクトドライバーの特定	分析対象となるセクター、ビジネスプロセス、活動は何か。どのような環境資産、生態系サービス、インパクトドライバーが、これらのセクター、ビジネスプロセス、活動、評価対象地域と関連しているのか。
E2 依存とインパクトの特定	自然に対する依存やインパクトは何か。
E3 依存とインパクトの測定	自然への依存規模や範囲はどの程度か。 自社が自然に与えるマイナスのインパクトの重要度はどの程度か。 自社が自然に与えるプラスのインパクトの規模と範囲はどの程度か。
E4 重要性のインパクト評価	自社のどのインパクトが重要か。

2 LEAPアプローチの各ステップ

Evaluateフェーズ（演習）2～3分

- E3では、E1およびE2で特定した**依存関係とインパクトの測定**を行います。
- TNFDが示す以下の評価指標を用いた影響要因や自然状態の変化、生態系サービスの変化の定量化をする場合、どの指標が貴社に該当するかをイメージしてください。

表 TNFDコアグローバル開示指標と測定指標（自然関連の依存関係とインパクト）

No.	カテゴリー	指標	測定指標	チェック
C1.0	陸上／淡水／海水・海洋利用・変化	総空間フットプリント	総空間フットプリント(km ²)(合計) : - 組織が管理する／管理している総表面積(km ²) - 改変された総面積(km ²) - 再生／修復された総面積(km ²)	
C1.1		陸上／淡水／海水・海洋利用・変化範囲	陸上／淡水／海水・海洋の生態系利用の変化の範囲・保全の範囲・持続可能な管理がされている範囲(km ²)	
C2.0	汚染／汚染除去	土壌汚染に放出された汚染物質	種類別の土壌に放出された汚染物質(t)	
C2.1		排水	排出量(m ³) 排水中の主要汚染物質濃度 排水の温度など	
C2.2		廃棄物の発生と処理	有害および非有害廃棄物の種類別の発生重量(t) 廃棄された有害および非有害廃棄物の重量(t) 埋立処分から転換された有害および非有害廃棄物の重量(t)など	
C2.3		プラスチック汚染	使用または販売されたプラスチック（ポリマー、耐久消費財、包装材）の総重量(t) 再利用可能、堆肥化可能、技術的にリサイクル可能なプラスチック包装の割合	

2 LEAPアプローチの各ステップ

Evaluateフェーズ (演習) 2~3分

表 TNFDコアグローバル開示指標と測定指標 (自然関連の依存関係とインパクト)

No.	カテゴリー	指標	測定指標	チェック
C2.4	汚染/汚染除去	非GHG大気汚染物質の合計	種類別のGHG以外の大気汚染物質の合計(t): 1. 粒子状物質(PM2.5および/またはPM10) 2. 窒素酸化物(NO ₂ 、NO、およびNO ₃) 3. 揮発性有機化合物(VOCまたはNMVOC) 4. 硫黄酸化物(SO ₂ 、SO、SO ₃ 、SO _x) 5. アンモニア(NH ₃)	
C3.0	資源の使用/補充	水不足地域からの取水と消費	水不足地域からの総取水量と消費量(m ³ または同等)	
C3.1		陸・海・淡水から調達するリスクの高い天然商品の量	陸/海/淡水から調達する高リスク天然生物資の量(t) 持続可能な管理計画または認証プログラムの下で調達された高リスク天然商品の量(t)	
C4.0	侵略的外来種とその他	プレースホルダー指標: 意図的でない侵略的外来種(IAS)の持ち込みに対する対策	意図的でないIASの持ち込みを防止する適切な措置の下で運営されている高リスクの活動、または低リスクで設計された活動の割合	
C5.0	自然の状態	プレースホルダー指標: 生態系の状態	TNFDは以下の指標を報告し、LEAPアプローチの「附属書2」の自然の状態の測定に関するTNFDの追加ガイダンスを参照することを推奨する: - 生態系と事業活動のタイプ別の生態系の状態レベル - 種の絶滅リスク これらの指標にはさまざまな測定オプションがある。	
		プレースホルダー指標: 種の絶滅リスク		

出所: [Guidance on the identification and assessment of nature related issues: The LEAP approach, TNFD, September 2023.pdf](#)よりEY仮訳・作成

2 LEAPアプローチの各ステップ

Assessフェーズ

- Assessフェーズでは、LocateおよびEvaluateフェーズで特定された自然への依存関係とインパクトに起因する、**自然関連のリスクと機会の特定、測定、優先順位付け**を行います。
- Assessフェーズでは、以下の成果が期待されています。
 - 関連する自然関連のリスクと機会のロングリスト（既存のリスクマトリックスにプロット可能）
 - 重要な自然関連リスクと機会のショートリストおよび優先順位の高い場所のリスト
 - 自然関連のリスクと機会を、既存のリスクと統合させるためのプロセス概要。

評価する (Assess) リスクと機会	
A1 リスクと機会の特定	自社の組織に関連するリスクと機会は何か。
A2 既存リスクの軽減と リスクと機会の管理の調整	既存のリスクを軽減し、リスクと機会を管理するプロセスと要素で、すでに適用しているものは何か。 リスクと機会の管理プロセスと関連要素（例えば、リスクタクソミー、リスクインベントリ、リスク許容度基準）をどのように適合させることができるか。
A3 リスクと機会の測定と 優先順位付け	どのリスクと機会が優先されるべきか。
A4 リスクと機会の 重要性の評価	どのリスクと機会が重要であり、TNFDの開示提言に沿って開示する必要があるか。

2 LEAPアプローチの各ステップ

Assessフェーズ

表 リスクのカテゴリーと概要

カテゴリー		概要
物理リスク	急性リスク	自然の状態を変化させる短期的で特定の出来事の発生。例えば、 <u>石油流出、森林火災、収穫に影響を及ぼす害虫</u> など。
	慢性リスク	自然の状態が徐々に変化すること。例えば、 <u>農薬の使用や気候変動に起因する汚染</u> 。
移行リスク	政策	自然へのプラスの影響の創出または自然へのマイナスの影響の緩和に関連する <u>新たな（または既存の）政策の施行による政策状況の変化</u> 。
	市場	<u>消費者の嗜好の変化など、市場全体のダイナミクスの変化</u> 。物理的、規制的、技術的、風評的条件や利害関係者のダイナミクスの変化の結果、他のリスクカテゴリーから生じる。例えば、 <u>生産工程に必要な淡水が不足しているために資産価値が減少した企業</u> 。
	技術	自然への影響を低減した製品やサービスの代替、または自然への依存度を低減した製品やサービスの代替。例えば、 <u>プラスチックから生分解性容器への置き換え</u> 。
	評判	地域レベル、経済レベル、社会レベルを含む、 <u>組織の実際の、または認識されている自然影響に関する認識の変化</u> 。これは、直接的な企業への影響、業界への影響、あるいはバリューチェーンの上流・下流における活動の影響から生じる。
	責任	責任リスクは、 <u>法的請求から直接的または間接的に生じる</u> 。組織の自然行動への備えに関する法律、規制、判例法が発展するにつれて、組織から発生する偶発債務の事件や確率が増加する可能性がある。

出所：[Guidance on the identification and assessment of nature related issues: The LEAP approach, TNFD, September 2023.pdf](#)よりEY仮訳・作成

2 LEAPアプローチの各ステップ

Assessフェーズ

ビジネスパフォーマンス

マーケット

消費者の需要、消費者と投資家の感情、利害関係者の動きなど、状況の変化の結果に生じる、新しい市場や場所へのアクセスなど、市場全体の動きの変化

資源の効率性

自然への影響や依存を回避または削減するために、組織が自らの事業やバリューチェーンの中で取ることができる行動（例えば、天然資源の使用量を減らすなど）や、事業効率の改善やコスト削減などのコベネフィットを達成するもの（例えば、植物の健全性を最大限に高め、水の使用量を減らし、コストを削減するマイクロ灌漑など）

製品・サービス

技術革新を含め、自然を保護、管理、回復するような製品やサービスの開発・提供に関連する価値提案

資本フローおよび資金調達

資本市場へのアクセス、融資条件の改善、またはプラスの自然影響やマイナス影響の緩和につながる金融商品

評判資本

社会への影響や利害関係者の関与を含む、企業の実態に関する認識や認知されている自然への影響の変化

持続可能性パフォーマンス機会のカテゴリー

天然資源の持続可能な利用

天然資源をリサイクル、再生、再生可能、または倫理的責任をもって調達された有機資源に置き換える

生態系の保護、回復、再生

組織の直接管理内外の地域における、生息地や生態系の保護、再生、回復を支援する活動

図 機会のカテゴリーと概要

2 LEAPアプローチの各ステップ

Assessフェーズ

- A3では、A1およびA2で特定した**リスクと機会の測定**を行います。
- TNFDでは、以下のとおり評価指標を提示しています。

表 TNFDコアグローバル開示指標と測定指標（自然関連の依存関係とインパクト）

No.	カテゴリー	測定指標
C7.0	リスク	自然関連の移行リスクに対して脆弱であると評価される資産、負債、収益、費用の金額（合計および合計に占める割合）
C7.1		自然関連の物理的リスクに対して脆弱であると評価される資産、負債、収益、費用の金額（合計および合計に占める割合）
C7.2		自然に関連する負の影響により、その年度に受けた相当の罰金／科料／訴訟の記述およびその金額
C7.3	機会	関連する場合には、政府または規制当局のグリーン投資分類法、あるいは第三者機関である産業界またはNGOの分類法を参照しながら、機械の種類別に、自然関連の機会に向けて投入された資本支出、融資または投資の金額
C7.4		自然に対して実証可能なプラスの影響をもたらす製品およびサービスからの収益の増加とその割合、ならびにその影響について記述

2 LEAPアプローチの各ステップ

Prepareフェーズ

- Prepareフェーズでは、Locate、Evaluate、Assessの評価を用いて、**特定された課題に組織がどのように対応すべきか、TNFDの開示提言に沿って何を開示するか**について、**社内の利害関係者との議論に反映させる必要がある。**
- Prepareフェーズでは、以下の成果が期待されています。
 - 効果的な目標とターゲットの設定を含め、LEAPアプローチで特定された自然関連の課題に組織がどのように対応するかについての合意
 - 自然関連の評価に照らしたガバナンスおよびリスク管理プロセスについての組織内の議論
 - 自然関連の評価と照合した組織による自然関連の目標およびターゲットの設定
 - TNFDに沿った開示の作成と公表

準備する(Prepare) 対応し報告する	
P1 戦略とリソース 配分計画	この分析の結果、どのようなリスクマネジメント、戦略および資源配分が決定されるべきか。
P2 ターゲット設定および パフォーマンス管理	どのようにターゲットを設定し進捗度を定義・測定するのか。
P3 報告	TNFDの開示提言に沿って、何を開示するのか。
P4 公表	自然に関する開示はどこで、どのように提示するのか。

2 LEAPアプローチの各ステップ



Prepareフェーズ **【SBTs for Nature】**

- TNFDでは「P2」のステップで、SBTs for Nature の手法を用いたターゲット設定が推奨されています。
- SBTs for Natureのステップ3までを完了することで、TNFDのターゲット設定が可能とされています。
- SBTNは企業に対し、まずはステップ1を実施するよう要請しています。

SBTs for Natureのプロセス

ステップ1 分析・評価 (Assess)	バリューチェーン全体※の自然への影響を評価し、目標設定のための潜在的な環境への影響と場所のリストを作成 <small>※初版では自社及び上流のみが対象で下流は含まない</small>
ステップ2 理解・優先順位づけ (Interpret & Prioritize)	自社及びバリューチェーンを俯瞰し、事業活動が全体的に最も大きな影響を与える領域を優先順位付け
ステップ3 計測・設定・開示 (Measure, Set & Disclose)	優先ターゲット並びに場所の基本データの収集、目標設定及び開示
ステップ4 行動 (Act)	目標達成のための行動 このステップのための方法論とツールは現在開発中（2024年に完成予定）
ステップ5 追跡 (Track)	進捗状況を監視し、必要に応じて戦略を変更し、進捗状況を公表 詳細なガイダンスは2024年から利用可能になる予定

ステップ1の概要

ステップ 1	1a. マテリアリティ・スクリーニング	1b. バリューチェーン評価
目的 	セクター・レベルの情報に基づき、企業による目標設定を必要とする可能性が最も高い重要な環境負荷を決定する	何に／事業のどの部分に／バリューチェーンのどこに目標を設定するかを決定するため、事業およびバリューチェーン全体にわたる主要な環境負荷への寄与度を推定し、自然状態 (state of nature) をスクリーニングする
方法・手順 	以下いずれかのアプローチを選択 <ul style="list-style-type: none"> • 規範的アプローチ (Prescriptive) SBTNが開発した「重要性スクリーニング・ツール」及び「影響の大きい商品リスト」を用いて、企業を中心的な経済活動に関連する環境負荷を迅速にスクリーニングし、目標設定の材料となる可能性が最も高い領域を特定する • フレキシブル・アプローチ (Flexible) 使用可能なツールまたはモデルを使用して、企業を中心的な経済活動のどれが社会的に重要であるかを判断する。このアプローチでは、企業はSBTN公表のステップ1aツールボックス (Excel) に含まれるリソース、またはSBTNのデータおよびツール品質基準を満たす代替ツールの使用が可能 	以下2つの推計を実施 <ul style="list-style-type: none"> • 環境負荷の推計 (使用する指標例) <ul style="list-style-type: none"> 【土地利用の変化】 2020年 (またはそれ以前) 以降に転換された土地面積 (km²またはha) (転換前後の生態系のタイプと利用によって分類) 【土地利用】 土地利用面積 (km²またはha) (既知の土地管理手法 (輪作、耕作等) を含む) 【水利用】 m³またはkm³ (水源 (地表水、地下水等) 毎) • 自然状態の推計 (使用する指標例) <ul style="list-style-type: none"> 【陸上生態系の転換】 生態系と土地利用タイプ別に見た健全な生態系及び土地利用の面積 (km²またはha) 【水利用】 地表水の流れと地下水位



情報開示に向けた準備、ステップの解説

自然関連財務情報開示のためのワークショップ《ベーシック編》

第2回 自然関連の依存・影響・リスクの分析に活用できるツールの紹介・実践

2023年10月31日

受託者：EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社 EY新日本有限責任監査法人